

## H30年度 診療科別DPC14桁別症例数トップ5

※同じ患者数が同順位で複数の場合は症例数順のDPCコード順とし、患者数等について10未満の数値の場合は、－(ハイフン)で示しております。

※本データは、入院時等にDPC請求対象外すなわち出来高算定等による件数は含まれておりません。

### 消化器内科

	DPCコード	DPC名称	症例数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	パス
1	060100xx01xx0x	小腸大腸の良性疾患(良性腫瘍を含む。)内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術 定義副傷病なし	733	2.22	2.67	0.1%	66.5	
2	060020xx04x0xx	胃の悪性腫瘍 内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術 手術・処置等2-なし	159	9.62	8.52	0.6%	72.3	
3	060035xx03xxxx	結腸(虫垂を含む。)の悪性腫瘍 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	60	6.10	7.09	0.0%	68.7	
4	060035xx99x50x	結腸(虫垂を含む。)の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等2-5あり 定義副傷病なし	44	5.18	4.27	0.0%	60.0	
5	060340xx03x00x	胆管(肝内外)結石、胆管炎 限局性腹腔膿瘍手術等 手術・処置等2-なし 定義副傷病なし	43	9.44	10.08	9.3%	71.2	

#### <<解説>>

当科では、食道・胃・大腸の病気に対する内視鏡検査やITナイフによる早期癌の内視鏡治療を、国立がんセンター中央病院(東京)と連携を保ちながら最新技術を提供しています。「苦痛のない、精度の高い内視鏡検査と治療」を目指し、早期の胃がんの内視鏡治療や大腸ポリープの内視鏡治療を多く行っています。外科や腫瘍内科と協力して分子標的薬剤による化学療法、腫瘍切除など集学的治療を行っています。

## H30年度 診療科別DPC14桁別症例数トップ5

### 腫瘍内科

	DPCコード	DPC名称	症例数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	パス
1	060035xx99x60x	結腸(虫垂を含む。)の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等2-6あり 定義副傷病なし	56	5.43	4.41	0.0%	64.6	
2	060020xx99x40x	胃の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等2-4あり 定義副傷病なし	47	5.57	5.55	0.0%	49.5	
3	060035xx99x50x	結腸(虫垂を含む。)の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等2-5あり 定義副傷病なし	44	7.20	4.27	0.0%	68.7	
4	060020xx99x70x	胃の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等2-7あり 定義副傷病なし	40	5.30	7.51	0.0%	55.6	
5	060040xx99x60x	直腸肛門(直腸S状部から肛門)の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等2-6あり 定義副傷病なし	38	4.55	4.33	0.0%	69.8	

#### <<解説>>

当科は消化器がん、乳がん、肺がん、卵巣がんなど固形がん全般に対する抗がん剤治療と緩和医療を専門とする診療科です。

その中でも、消化器病センターの一員として消化器がんの抗がん剤治療を担っていることから、大腸がん、胃がんの治療件数が上位を占めています。当科では適切な標準治療を提供するばかりでなく、数多くの臨床試験、治験などに参画してよりすぐれた治療の開発にも取り組んでいます。

また、腹膜播種を伴う胃がんに対する腹腔内化学療法を先進医療の枠組みで行っています。

## H30年度 診療科別DPC14桁別症例数トップ5

### 膠原病・リウマチ科

※10症例未満は公表しません。

	DPCコード	DPC名称	症例数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	パス
1	070560xx99x00x	重篤な臓器病変を伴う全身性自己免疫疾患 手術なし 手術・処置等2-なし 定義副傷病なし	49	10.57	15.58	0.0%	65.5	
2	070470xx99x5xx	関節リウマチ 手術なし 手術・処置等2-5あり	34	2.32	2.73	0.0%	61.9	
3	070470xx99x0xx	関節リウマチ 手術なし 手術・処置等2-なし	16	12.50	15.90	18.8%	70.7	
4	070560xx97x00x	重篤な臓器病変を伴う全身性自己免疫疾患 手術あり 手術・処置等2-なし 定義副傷病なし	10	33.90	27.07	10.0%	74.1	
5	-	-	-	-	-	-	-	

#### <<解説>>

当科では、関節リウマチ、膠原病などの自己免疫疾患を専門としています。インフリキシマブなど生物学的製剤の点滴静注を短期入院で行っています。また、ステロイド剤、免疫抑制薬や生物学的製剤に伴う合併症、間質性肺炎などの重症疾患の対応をしています。

## H30年度 診療科別DPC14桁別症例数トップ5

### 糖尿病・内分泌内科

※10症例未満は公表しません。

	DPCコード	DPC名称	症例数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	パス
1	100070xx99x100	2型糖尿病(糖尿病性ケトアシドーシスを除く。)(末梢循環不全なし。) 手術なし 手術・処置等2-1あり 定義副傷病なし	18	14.00	14.69	5.6%	57.2	
2	100070xx99x000	2型糖尿病(糖尿病性ケトアシドーシスを除く。)(末梢循環不全なし。) 手術なし 手術・処置等2-なし 定義副傷病なし	13	10.38	11.3	0.0%	57.8	
3	-	-	-	-	-	-	-	
4	-	-	-	-	-	-	-	
5	-	-	-	-	-	-	-	

#### <<解説>>

2型糖尿病に対する入院が多く、その多くは糖尿病の合併症評価をいっつつ、糖尿病に対する理解を深めて頂くテキスト指導、ならびに栄養指導や運動療法の指導を行って患者の自己対応能力を向上させるような教育入院になります。また、低血糖などにより緊急搬送となるケースもあります。血糖値が高く手術が行えないような場合には、血糖を当科でコントロールした後に手術や内視鏡処置となるケースもあります。他には下垂体疾患や副腎腫瘍に対しての精査を行う症例も一定数いらっしゃいます。

## H30年度 診療科別DPC14桁別症例数トップ5

### 血液内科

	DPCコード	DPC名称	症例数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	パス
1	130030xx99x40x	非ホジキンリンパ腫 手術なし 手術・処置等2-4あり 定義副傷病なし	75	14.88	16.17	0.0%	72.1	
2	130030xx97x40x	非ホジキンリンパ腫 手術あり 手術・処置等2-4あり 定義副傷病なし	42	31.26	32.36	4.8%	73.4	
3	130010xx97x2xx	急性白血病 手術あり 手術・処置等2-2あり	20	44.45	40.13	10.0%	76.9	
4	130030xx99x30x	非ホジキンリンパ腫 手術なし 手術・処置等2-3あり 定義副傷病なし	15	11.20	17.10	0.0%	59.5	
5	130060xx99x4xx	骨髄異形成症候群 手術なし 手術・処置等2-4あり	13	10.92	17.90	0.0%	79.2	

#### <<解説>>

当科においては血液悪性腫瘍の患者が大半を占める。

特に非ホジキンリンパ腫が多くを占めているが、これは当科の特色というよりは血液悪性腫瘍において非ホジキンリンパ腫が圧倒的に頻度が高いことによるものである。

## H30年度 診療科別DPC14桁別症例数トップ5

### 循環器内科

	DPCコード	DPC名称	症例数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	パス
1	050050xx99200x	狭心症、慢性虚血性心疾患 手術なし 手術・処置等1-2あり 手術・処置等2-なし 定義副傷病なし	82	3.34	3.15	1.2%	72.4	
2	050050xx02000x	狭心症、慢性虚血性心疾患 経皮的冠動脈形成術等 手術・処置等1-なし、1,2あり 手術・処置等2-なし 定義副傷病なし	71	4.01	4.47	0.0%	73.6	
3	050050xx99100x	狭心症、慢性虚血性心疾患 手術なし 手術・処置等1-1あり 手術・処置等2-なし 定義副傷病なし	32	3.78	3.01	3.1%	69.1	
4	050130xx99000x	心不全 手術なし 手術・処置等1-なし 手術・処置等2-なし 定義副傷病 なし	27	16.78	17.66	14.8%	80.0	
5	050170xx03000x	閉塞性動脈疾患 動脈塞栓除去術 その他のもの(観血的なもの)等 手 術・処置等1-なし、1あり 手術・処置等2-なし 定義副 傷病なし	25	4.52	5.50	0.0%	74.6	

#### <<解説>>

循環器内科では、他疾患で当院通院中や他の医療機関からのご紹介の入院が多く、狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患や、うっ血性心不全、下肢閉塞性動脈硬化症などの治療を行ってきました。平成29年度からは札幌市循環器呼吸器二次救急、平成30年度からは札幌市ACSネットワーク当番を担当しており、急性冠症候群、急性心不全、不整脈などを含む急性期の循環器疾患にもより積極的に対応していきたいと考えています。

## H30年度 診療科別DPC14桁別症例数トップ5

### 外科

	DPCコード	DPC名称	症例数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	パス
1	060335xx02000x	胆嚢水腫、胆嚢炎等 腹腔鏡下胆嚢摘出術等 手術・処置等1-なし 手術・処置等2-なし 定義副傷病なし	89	6.66	7.30	0.0%	60.9	
2	060160x001xxxx	鼠径ヘルニア(15歳以上) ヘルニア手術 鼠径ヘルニア等	68	3.60	4.96	0.0%	68.4	
3	060035xx01000x	結腸(虫垂を含む。)の悪性腫瘍 結腸切除術 全切除、亜全切除又は悪性腫瘍手術等 手術・処置等1-なし 手術・処置等2-なし 定義副傷病なし	65	17.65	15.30	6.2%	67.6	
4	060020xx02x00x	胃の悪性腫瘍 胃切除術 悪性腫瘍手術等 手術・処置等2-なし 定義副傷病なし	55	16.38	16.49	0.0%	68.0	
5	060040xx02000x	直腸肛門(直腸S状部から肛門)の悪性腫瘍 肛門悪性腫瘍手術 切除等 手術・処置等1-なし 手術・処置等2-なし 定義副傷病なし	35	17.86	15.84	2.9%	63.8	

#### <<解説>>

消化器癌の中で特に胃癌、大腸癌に対する手術の件数が多くなっています。

当科では消化器癌手術に積極的に腹腔鏡手術を導入しており、胃大腸手術の7割以上を腹腔鏡で行っています。化学療法を組み合わせた治療や、肛門温存手術も多く行われています。ほとんどの手術にクリニカルパスを導入し、治療の標準化がなされています。

鼠径ヘルニアについても、腹腔鏡下手術を中心に、症例に応じたテーラメード治療を積極的に行っています。

## H30年度 診療科別DPC14桁別症例数トップ5

### 心臓血管外科

※10症例未満は公表しません。

	DPCコード	DPC名称	症例数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	パス
1	050050xx0101xx	狭心症、慢性虚血性心疾患 心室瘤切除術(梗塞切除を含む。) 単独のもの等 手術・処置等1-なし 手術・処置等2-1あり	20	21.85	22.91	5.0%	69.9	
2	050180xx02xxxx	静脈・リンパ管疾患 下肢静脈瘤手術等	11	3.00	2.85	0.0%	67.9	
3	-	-	-	-	-	-	-	
4	-	-	-	-	-	-	-	
5	-	-	-	-	-	-	-	

#### <<解説>>

狭心症に対する冠動脈バイパス術については基本的に人工心肺装置を用いず心臓を動かしたまま行うオフポンプ手術を行っています。



## H30年度 診療科別DPC14桁別症例数トップ5

### 整形外科

	DPCコード	DPC名称	症例数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	パス
1	160800xx01xxxx	股関節・大腿近位の骨折 人工骨頭挿入術 肩、股等	55	25.80	26.30	85.5%	80.0	
2	070370xx99xxxx	脊椎骨粗鬆症 手術なし	53	20.47	21.47	69.8%	80.2	
3	070343xx01x0xx	脊柱管狭窄(脊椎症を含む。) 腰部骨盤、不安定椎 脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術(多椎間又は多 椎弓の場合を含む。) 前方椎体固定等 手術・処置等 2-なし	40	21.53	21.39	32.5%	72.9	
4	160760xx97xxxx	前腕の骨折 手術あり	17	5.06	5.68	0.0%	56.1	
5	070343xx97x0xx	脊柱管狭窄(脊椎症を含む。) 腰部骨盤、不安定椎 その他の手術あり 手術・処置等2-なし	16	18.31	16.80	6.3%	68.6	

#### <<解説>>

高齢者の骨粗しょう症関連骨折の救急搬送が増加しており、上記DPCコード症例が上位となっています。  
脊椎外科医が2名常勤でいることから、昨年より更に脊椎手術症例が増えています。

## H30年度 診療科別DPC14桁別症例数トップ5

### 眼科

※10症例未満は公表しません。

	DPCコード	DPC名称	症例数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	パス
1	020110xx97xxx0	白内障、水晶体の疾患 手術あり 片眼	283	2.18	2.84	0.4%	74.3	
2	-	-	-	-	-	-	-	
3	-	-	-	-	-	-	-	
4	-	-	-	-	-	-	-	
5	-	-	-	-	-	-	-	

#### <<解説>>

当院では、多くの白内障手術を行っており、平成30年度の実績は283症例です。局所麻酔での手術が難しい場合は、全身麻酔での手術も行っております。

## H30年度 診療科別DPC14桁別症例数トップ5

### 耳鼻咽喉科

	DPCコード	DPC名称	症例数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	パス
1	030240xx99xxxx	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎 手術なし	93	5.35	5.43	1.1%	34.5	
2	030350xxxxxxxx	慢性副鼻腔炎	67	6.84	7.04	0.0%	59.1	
3	030230xxxxxxxx	扁桃、アデノイドの慢性疾患	34	7.74	7.89	0.0%	27.4	
4	100020xx010xxx	甲状腺の悪性腫瘍 甲状腺悪性腫瘍手術 切除等 手術・処置等1-なし	26	9.27	8.68	0.0%	54.6	
5	030150xx97xxxx	耳・鼻・口腔・咽頭・大唾液腺の腫瘍 手術あり	25	7.20	7.37	0.0%	48.2	

#### <<解説>>

甲状腺悪性腫瘍では、縦隔郭清・気管切開孔を行う症例が平均在院日数を押し上げていると考えます。

## H30年度 診療科別DPC14桁別症例数トップ5

### 形成外科

	DPCコード	DPC名称	症例数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	パス
1	080180xx99xxxx	母斑、母斑症 手術なし	237	3.55	3.82	0.0%	4.0	
2	140620xx97xxxx	その他の先天異常 手術あり	112	9.24	10.38	0.0%	29.9	
3	070590xx97x0xx	血管腫、リンパ管腫 手術あり 手術・処置等2-なし	93	7.05	7.17	0.0%	27.1	
4	160200xx0200xx	顔面損傷(口腔、咽頭損傷を含む。) 鼻骨骨折整復固定術等 手術・処置等1-なし 手術・処置等2-なし	39	7.92	5.37	0.0%	31.1	
5	140620xx99xxxx	その他の先天異常 手術なし	27	2.81	7.76	0.0%	13.4	

#### <<解説>>

当科では、乳幼児の母斑に対するレーザー治療の症例が一番多く行っております。  
また、血管奇形や血管腫の治療も多く行っています。

## H30年度 診療科別DPC14桁別症例数トップ5

### 婦人科

	DPCコード	DPC名称	症例数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	パス
1	120060xx02xxxx	子宮の良性腫瘍 腹腔鏡下腔式子宮全摘術等	120	6.03	6.16	0.0%	42.0	
2	120070xx02xxxx	卵巣の良性腫瘍 卵巣部分切除術(腔式を含む。) 腹腔鏡によるもの等	44	6.11	6.28	0.0%	38.8	
3	120100xx01xx0x	子宮内膜症 子宮全摘術等 定義副傷病なし	43	6.58	7.54	0.0%	40.5	
4	120220xx01xxxx	女性性器のポリープ 子宮全摘術等	41	2.80	2.96	0.0%	41.1	
5	12002xxx02x0xx	子宮頸・体部の悪性腫瘍 子宮頸部(腔部)切除術等 手術・処置等2-なし	27	2.89	3.20	0.0%	37.6	

#### <<解説>>

平成30年度に当院婦人科・生殖内分泌科で治療をした患者さんの平均年齢は40.7歳で、比較的若い年齢の割合が多くなっています。これは妊娠目的に受診されている患者さんが多いことが影響していると思われます。

当院は一般不妊治療から内視鏡下手術、高度生殖医療まで広範囲に治療を行うことができる特徴があることから、地域連携病院から妊娠、あるいは婦人科腫瘍の治療を目的とした内視鏡下手術目的に連携病院から紹介され、受診されています。

可能な症例は積極的に内視鏡手術で治療していることから、平均在院日数は腹腔鏡下手術で約6.1日、内膜ポリープなどの子宮鏡下手術で平均2.8日と短くなっています。

術後も早期回復できるため、転院することなく、退院後早期に社会復帰されています。

## H30年度 診療科別DPC14桁別症例数トップ5

### 泌尿器科

	DPCコード	DPC名称	症例数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	パス
1	110200xx02xxxx	前立腺肥大症等 経尿道的前立腺手術等	82	8.35	8.65	1.2%	72.4	
2	110080xx991x0x	前立腺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等1-あり 定義副傷病なし	68	3.03	2.53	0.0%	68.0	
3	110070xx0200xx	膀胱腫瘍 膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術 手術・処置等1-なし 手術・処置等2-なし	38	6.47	7.20	0.0%	72.9	
4	110080xx01xxxx	前立腺の悪性腫瘍 前立腺悪性腫瘍手術等	17	11.53	12.63	0.0%	69.8	
5	110420xx02xx0x	水腎症等 経尿道的尿管ステント留置術等 定義副傷病なし	14	3.71	4.29	0.0%	65.5	

#### <<解説>>

前立腺がんや腎がんなどの「泌尿器悪性腫瘍」に対する手術治療を行っています。当科では患者さんにとって体に負担の少ない優しい手術を心がけております。腹腔鏡手術をはじめとした内視鏡手術を積極的に行っているほか、希望する方には体に2-4cmの切開のみで手術操作をおこなう単孔式腹腔鏡手術も行っております。2019年4月からロボット支援手術の最新鋭機器であるダビンチXiが導入され、2019年6月からは前立腺がんに対して、8月からは腎がんに対してロボット支援手術を開始しています。

手術治療だけでなく、進行性腎がんに対する薬物療法として分子標的薬や免疫チェックポイント阻害剤を用いた治療を行っているほか、進行性膀胱がんに対しても抗がん剤の治療を行っています。

## H30年度 診療科別DPC14桁別症例数トップ5

### 放射線科

※10症例未満は公表しません。

	DPCコード	DPC名称	症例数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	パス
1	060050xx97x00x	肝・肝内胆管の悪性腫瘍(続発性を含む。)その他の手術あり 手術・処置等2-なし 定義副傷病なし	27	7.63	10.42	3.7%	79.6	
2	11001xxx01x0xx	腎腫瘍 腎(尿管)悪性腫瘍手術等 手術・処置等2-なし	27	4.22	11.50	3.7%	60.9	
3	-	-	-	-	-	-	-	
4	-	-	-	-	-	-	-	
5	-	-	-	-	-	-	-	

#### <<解説>>

当院は癌治療を中心に据えた高度急性期病院という位置づけに有り、特に内科系の診療科、外科とも消化器がんに高度な医療を提供しているため、肝悪性腫瘍の患者数が多く、その中で、切除不可能や化学療法の効果がない患者さんが当科が提供する画像化治療(IVR)の対象となっています。平均在院日数は 7.63日で全国平均10.42日と7.76日と比較して短い期間で治療しています。その他、先天異常は大部分が血管奇形ですが、当院には形成外科に血管腫・血管奇形センターが設置されており、全国から多様な患者さんが受診しております。当科では主に血管塞栓術による治療を行っています平均在院日数は4.50日で全国平均7.76日と比較して短い期間で治療しています。全国に先駆けて当院にMRI対応冷凍手術器が導入され、腎がんの凍結治療を積極的に行っているため腎腫瘍の割合が多くなっています。凍結療法は身体的負担が少なく、短期間の入院で治療可能な為、平均在院日数は4.22日で全国平均11.50日と比較して1/2以下になっています。

|



Vertical line on the left side of the page.

|

|

|

|

Vertical line on the left side of the page.

\_\_\_\_\_

|



\_\_\_\_\_

|

\_\_\_\_\_

|

|

|